

【会議録】

主 題 令和4年度 第2回つくばみらい市地域公共交通会議

●日 時：令和4年6月24日（金） 午後2時～午後2時45分

●場 所：つくばみらい市役所伊奈庁舎 2階 会議室 1、2

●出席委員：秋山義継会長、古谷隆夫副会長、武藤成一委員（代理：岡野篤之氏）、田中正利委員
富山和之委員、小川一成委員、仲野俊二委員（代理：赤木祐道氏）
寺田明弘委員（代理：山浦俊一氏）、野村俊光委員
豊島美智子委員（代理：谷藤武光氏）、島崎邦雄委員、北澤盛次委員、神達隆樹委員
渡来真一委員、伊藤和浩委員 以上15名

●欠席委員：澤島政志委員、服部 透委員、國下裕司委員、山野井周一委員、松本讓二委員
海老原弘委員、東ヶ崎裕二委員、池田和美委員 以上8名

●事 務 局：都市建設部 飯泉部長
都市計画課 成嶋課長、藤倉課長補佐、堀越係長、岩上主事、小松主事
㈱アルメックVPI 内山上席コンサルタント、和田コンサルタント、中島コンサルタント

●傍 聴 人：2名

●次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長あいさつ
4. 議題

<協議事項>

- (1) 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
- (2) 地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査について
- (3) コミュニティバスお試し乗車券について
- (4) コミュニティバス小絹ルートの一部改正について

- 5 閉会

◆ 会議要旨

<議題>

協議事項

- (1) 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について説明し、承認された。
- (2) 地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査について
地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査の内容について説明し、承認された。
- (3) コミュニティバスお試し乗車券について
コミュニティバスお試し乗車券について説明し、承認された。
- (4) コミュニティバス小絹ルートの一部改正について
コミュニティバス小絹ルートのルート・ダイヤについて見直しを進めていくことを説明し、承認された。

◆ 会議録

- 1 開会（午後 2 時 0 0 分）
- 2 委嘱状交付
役員改選により、新しく委員になられた方に委嘱状を交付した。
- 3 会長あいさつ
- 4 議題

協議事項

- (1) 令和 5 年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
令和 5 年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について説明し、承認された。

<質疑等：なし>

- (2) 地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査について
地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査の内容について説明し、承認された。

<質疑等>

会 長：前回の地域公共交通網形成計画策定時に実施したアンケート調査と比較して新たに加えた点はあるか。

事 務 局：当初は、市民アンケートの票数を 5,000 票としていたが、より詳細なデータを集めるために 1 世帯に 2 票ずつアンケートを配布し、総数を 10,000 票に設定した。従来の鉄道・バス・タクシーといった移動手段に加え、多様な交通サービスが登場し、1 人 1 人の移動範囲をきめ細かく分析する必要がある。公共交通に対してどのようなニーズがあるかを様々な角度から把握する必要があると考えている。

会 長：交通需要は、調査基準の設定の仕方によって変わる。調査の在り方によっては、今後の本会議における交通資源の在り方も変わってくる。そうした面も考慮して調査に臨んでほしい。

また、交通ネットワークの構築には多額の費用を要する。様々な交通資源がある中で、交通需要の密度の違いによってどのようなものが適しているのか、その辺りも考えていただきたい。

委員意見：先程の説明にあった「将来における移動の不安」については、非常に重要な要素であると捉えている。運転免許保持者からは「いずれ足腰が弱くなったら公共交通を利用する」という声をよく聞く。しかし、そういった方は日常的に公共交通を利用しておらず、乗り慣れていないことが多い。実際に利用する立場になった場合には、公共交通の利用ではなく、介護サービスの利用が必要な状態に陥っているケースも想定される。そのため、今後の取り組みの一環として、免許返納を予定している高齢者等に向け「バスの乗り方教室」などの開催も検討に入れてはどうか。北海道の帯広市を視察した際に類似事例を耳にしたので、可能であれば今後の施策等に反映させることも検討していただきたい。

続いて、公共交通の利用者アンケートについて伺いたい。今回のアンケートは、合計で何票程度の回収を想定しているのか。調査時期が 7 月中旬から 8 月上旬

とあるが、利用者の属性を考慮すると、高校生などの学生が夏休みに差し掛かる影響で、高校生世代の票の獲得が難しくなることが懸念される。そうなった場合、世代間の回収票数に差が出てしまう可能性もあるため、その辺りの考えを伺いたい。

事務局：公共交通利用者アンケートの実施時期については、当然、通勤や通学がある時期をベースに調査していく方針である。調査時期は、ご意見をいただいたとおり夏休みの影響が想定されるため、通学需要がある時期にずらすことも検討したい。

アンケート回収目標数は、前回の地域公共交通網形成計画の策定時に実施したアンケート回収率から今回の目標票数を算出した。市民アンケート調査は、前回調査時に 9,000 票配布し 2,840 票回収できた。回収率は 31.6%となっており、今回の目標回収率も 30%程度（1,500 世帯 3,000 票）を見込んでいる。コミュニティバスに関しては、前回調査時が 111 票回収となったため、今回も 100 票程度の回収を目標としている。路線バスに関しては、前回調査時が 463 票回収しており、今回も 400 票程度の回収を目標としている。病院バスは前回調査時には運行していなかったため、現在の利用者数から算出して 15 票程度を回収目標としている。デマンド乗合タクシーは、前回調査時が 244 票回収（回収率 48.8%）であったため、今回も 250 票程度（回収率 50%）を見込んでいる。

会長：委員から「高齢者の免許返納」というワードが上がったが、世間でも話題になっている。高齢者と若年層（16 歳から 24 歳程度）の事故率を比較しても実際は同等である。日本国内においても移動サービスが充実している地域ばかりではなく、自動車利用を選択せざるを得ない環境の人々が存在することも忘れてはならない。その辺りも加味したアンケート調査を実施してほしい。

(3) コミュニティバスお試し乗車券について

コミュニティバスお試し乗車券について説明し、承認された。

<質疑等>

委員意見：チラシを市広報に折り込むとのことであったが、「お試し乗車券」という表記に対して、通勤通学等で普段利用している方もお試し乗車券を利用できるのか。

事務局：そのとおりである。お試し乗車券はチラシ 1 枚につき 4 枚付いているため、普段利用している方の家族も含めて誰でも利用できる。

委員意見：着眼点は非常によいと思う。一方で「お試し」という表現は、新規ユーザーの利用を獲得するという意味合いが強いと捉える。普段利用している方が無料で乗車できるだけのチケットにならないように表現等含めて今後の検討材料であるとする。

会長：つくば市では、お試し乗車券のような利用促進策は実施しているか。

委員意見：つくば市の公共交通利用者は年間 100 万人を超える。コミュニティバスに関しては、無料乗車は実施していない。デマンド乗合タクシー「つくタク」は登録制のため、利用者が事前に把握できるため、既存利用者を除外した上で無料乗車体験を実施したことはある。

会長：委員の意見を踏まえて、つくばみらい市でもお試し乗車券の配布が無駄にならないように利用促進に取り組んでほしい。このように他自治体と比較検証をと

おして相互間の情報交換等の促進にも繋げてほしい。

- (4) コミュニティバス小絹ルートの一部改正について
コミュニティバス小絹ルートのルート・ダイヤについて見直しを進めていくことを説明し、承認された。

<質疑等>

会 長：ルート編成については、交通サービスの利用度を高めながら沿線住民の要望に応えるために試行錯誤していく必要がある。財政面を含めて利用者のニーズとの妥協点を探りながら慎重に考えていかなければならない。運行事業者と調整し、行政側の立場からも意見を入れながらルート編成を進めていただきたい。

5 閉会（午後2時45分）

●配布資料

- 【資料1】 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
【資料2】 地域公共交通計画の策定に係るアンケート調査について
【資料3】 コミュニティバスお試し乗車券について
【資料4】 コミュニティバス小絹ルートの一部改正について